

民俗博の資料を視察 検討委 保存方針の協議継続＝奈良

2025/01/31 大阪読売新聞 朝刊 25ページ 565文字

県立民俗博物館（大和郡山市）に収蔵する資料の収集や保存方針の策定に向けた検討委員会が29日、同館で開かれた。資料に著しい損傷がある場合、廃棄などの除籍候補とする案を県が示したが、5人の委員から意見が相次ぎ、案を修正したうえで協議を継続することになった。

会合は非公開で行われた。除籍を検討する資料の対象や収集・保存方針案について議論し、予定時間を大幅に上回った。

会合に先立ち、委員は同館の収蔵庫のほか、入りきらなかった資料を置いている旧郡山土木事務所（同市）を訪れ、長持（ながもち）や農具など多数の民俗資料を視察した。

同館では高橋史弥学芸員が、資料の整理状況について約7300点が終了したと報告。計4万5000点とされる収蔵品は「実際にはもっと多い。整理の進捗（しんちよく）は個人的には2～3%ぐらいと思う」と話した。

日高真吾委員長（国立民族学博物館教授）は取材に対し、「貴重な資料が重厚に集められてきたことは間違いないと改めて知った」と述べる一方、「置いているだけというものもあり、どのように整理するかが大きな課題。整理を手助けできるような制度設計を考えたい」と話した。

県は2025年度中に収集と保存の方針を策定する方針。次回会合の日程は未定。

写真＝旧郡山土木事務所を視察する委員ら（29日、大和郡山市で）＝代表撮影

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved